

都城市・荘内町合併50周年記念号



平成27年4月1日発行



都城市・荘内町合併 50 周年を記念して

庄内地区まちづくり協議会
会長 釘村 美千也

荘内町と都城市が昭和 40 年 4 月 1 日に合併し 50 年、ここに多くの地域の皆様と御多忙のなか御臨席を賜りました来賓の皆様を迎え盛大に合併記念祝賀会を実施できることを、共に心からお慶び申し上げます。

合併時の蒲生昌作市長の挨拶に「大同団結一体となって希望に満ちた新市建設の大事業推進に共々邁進いたしたいと存じます」とあります。合併時の荘内町民の思いには希望・不安等、賛成反対のいろいろな意見があった事と思います。合併から 50 年、庄内地区の発展に尽力され今日まで導いて頂いた諸先輩方々に心から感謝申し上げます。

思い返しますと、合併前から行われていた体育まつりは合併後も昭和 40 年 10 月第 1 回として引き継ぎ、公民館長が中心に青年団、壮年団、婦人会の協力を得ながら地区民総参加の行事として最高の盛り上がりでした。昭和 54 年には宮崎国民体育大会が行われ、庄内、西岳地区が自転車ロードレース会場になりました。

市立庄内病院が民間に委譲されるという住民にとっては心配なできごともありましたが、平成 8 年庄内地区社会福祉協議会の設立と地区の福祉活動計画の策定等の取り組み、元気づくり委員会による地区の活性化等の事業も展開されました。体育まつり中止後は、庄内三大イベントとして平成 26 年度で庄内ふるさと祭りが 29 回、庄内川一周 Y O U 遊駅伝大会が 20 回、スポーツレクレーション大会が 15 回、年々内容も充実し新たな庄内地区の伝統行事になりました。

平成 5 年大雨による大水害、平成 21 年新燃岳噴火による降灰被害、平成 22 年のゲリラ豪雨による河川の氾濫等の災害もありました。

庄内地区は霧島山系高千穂峰を源流に西岳千足川から庄内川に、その流れは昔日と変わらぬ流れを青々と漂わせています。関之尾から乙房大淀川合流地点まで 8 キロメートル、この庄内川両域に関之尾町（川崎区、関之尾区）、庄内町（西区、町区、東区）、菓子野町（今屋区、千草区、宮島区）、乙房町（乙房区、平田区）の 10 自治公民館に 3,600 戸 8,000 人が営む庄内地区、日本の滝百選に選定された関之尾滝、都城島津家発祥ゆかりの墓所や由緒ある寺社も多く、また各地区に伝承の郷土芸能も多数あり、歴史と文化のある人情豊かな土地柄です。

私達は庄内地区を一層住みよいまちにするため、3 年間の検討会議をかさね、平成 22 年 4 月、庄内地区まちづくり協議会を発足させました。地区内各団体を網羅し、自分達で出来ることは自分達で「みんなでつくる住みよいまち庄内」をめざし活動しています。

主な活動としては先ほど申し上げました三大イベントの開催をはじめ、地域の中心を流れる庄内川の堤防が、地区住民のウォーキングコースや中学生等の通学路にもなっていることから、地域の各団体と協力して草刈りを実施したり、観光客向けに関之尾滝のライトアップや無料休憩施設の建設等も行ったりしています。

また地区内の小中学校の児童・生徒に対し、郷土を知り自分の生まれたまちに誇りを持ってもらうために歴史・文化の学習支援に力を入れています。平成23年から庄内中学校の1年生を対象に地域の史跡や寺社を巡る「地域巡見学習」を実施、各小学校に対しても4・5年生の遠足や郷土学習の支援を行っています。

さらに平成26年度からは市の地域活性化事業を活用し、地域内史跡や観光地の整備、地域の魅力を発信するための動画作成等に取り組んでおります。

庄内地区のことばかり申し上げましたが、都城市との合併から50年の歳月が流れ、若い世代では庄内町のことを知らない人も多くなってきました。この記念祝賀会をきっかけにもう一度庄内・西岳地区と一緒にまちづくりに取り組んだ歴史を思い返し、市と共に両地区の発展に取り組むたいと考えております。

最後に、庄内・西岳地区の皆様の御多幸と御健勝を心から祈念いたしまして実行委員代表あいさつといたします。



都城市・庄内町合併50周年を記念して

西岳地区まちづくり協議会
会長 坂元 和雄

皆さんこんにちは。本日は庄内町（庄内町、西岳町）と旧都城市が合併し50周年を迎えるのを記念式典と言うことでご案内を申し上げた所、都城市長 池田 宜永様、都城市議会議長 永山 透様、都城市教育長 黒木 哲徳様、市民生活部長 杉田 淳一郎様関係各位のご臨席を賜り、又400名有余の庄内、西岳の有志の皆さんに出席頂き衷心より厚くお礼申し上げます。

ご案内のように昭和40年4月1日庄内町と旧都城市が合併し、都城市西岳町となり合併時の人口は6,150人ありましたが50年間で当地域は4,000人の人口減となっております。

西岳地区は都城市の中心部からみて北西部に位置し、市役所から西岳地区市民センターまで約20kmの距離があり、西側は霧島市、南側は曾於市へ隣接しており地区の面積は市の15地区ある中で一番広い103.23Km²で68%が山林や原野になっている中山間地であり、地区の一部は霧島屋久国立公園となっております。

西岳地区は美川町・高野町・吉之元町・御池町・夏尾町の5町からなり平成27年3月1日現在の人口は2,129人であり65歳以上の高齢者が54%を超え、都城市平均27%の倍を超える超高齢化地域でありまして、また管内の小中学校（4校）中学校（2校）の児童、生徒数は平成27年3月1日現在81人で少子高齢化が進み人口は減少し続けています。しかし霧島山の峰の、裾野に広がる豊かな大自然の恵みをうけ、山々からの清らかな湧き水、緑豊かな大地の中で生活できる幸せな地域でもあります。

地域活性化のためにも高齢者の生きがい作り、一人暮らし高齢世帯への見守り活動、空き家対策、地域文化の継承、地域リーダーの育成等早急に取り組まなければならない課題が山積しています。

大自然の中で安心して暮らせる地域、住み慣れた地域で暮らせる為に11公民館が手を携えて活動を進めて行き、また、平成23年1月26日新燃岳噴火の教訓を糧に台風、土石流災害、地震等に対して各自治公民館が独自の安心安全な防災体制及び避難体制の確立、予測、準備を怠らない様に行政と一体となり地域住民を支えて行きたいと考えております。

今、地域を取り巻く課題も多種多様で、都市化、情報化の進展等に伴い、人々の価値観や生活スタイルが多様化する中で、現代社会は人間関係や地域における絆の気薄化、地域コミュニティの崩壊など様々な課題を抱えているので、地域の絆を深め連帯感なくしては地域の発展はないと思いますので、西岳地区まちづくりの基本理念となっている自然豊かで、人情味あふれる笑顔のまち西岳を構築し活性化を図って行きたいと考えております。

終わりになりますが、荘内町と旧都城市の合併50周年記念式典が充実した素晴らしい式典になりますように、心からご祈念申し上げまして言葉足りませんが、実行委員を代表しての挨拶と致します。

ありがとうございました。



祝 辞

都城市長 池田 宜永^{たか ひさ}

都城市・荘内町の合併50周年という節目の年を、皆様と一緒に迎えすることができ、喜ばしく思いますとともに、記念パンフレットが発行されるにあたり、心からお祝い申し上げます。

合併が行われた昭和40年から今日までの50年間は、社会・経済各般にわたって大きな変化の時代でありましたが、郷土を愛する先人のたゆまぬご尽力により、市勢は発展の一途をたどることができました。本市発展の礎を積み重ねてこられました先人とすべての市民の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

その後、中郷村との合併を経て、平成18年1月に今の新・都城市が誕生しました。「市民の願いがかなう 南九州のリーディングシティ」を都市目標像に掲げ、産業・経済・教育・文化の拠点都市として、さらなる発展を目指しております。来年は新市誕生10周年を迎えます。これを記念して様々なイベントが計画されておりますが、皆様とともに盛大にお祝いしたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

本市には、「農林畜産業」「地の利」「次世代を担う子どもたち」という3つの宝があります。未来へと導くこれらの宝を輝かせるために、6次産業化の推進をはじめとする農林畜産業の振興に力を注ぐとともに、基幹道路の整備を進めることで地の利をさらに拡大させ、人間力あふれる子どもたちを育てていくことで、「笑顔あふれるまち＝スマイルシティ都城」を創り上げていきたいと考えておりますので、皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この50周年記念事業の実施にあたり、ご尽力くださいました実行委員の皆様へ感謝申し上げますとともに、地域の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます、祝辞といたします。



都城市・荘内町合併50周年記念号発刊に寄せて

都城市議会議長 永山 透

都城市・荘内町合併50周年を心からお喜び申し上げます。

また、記念パンフレットを発刊されるにあたり、庄内、西岳のまちづくり協議会はじめ関係者の皆様の並々ならぬ御熱意と御尽力にあらためて敬意を表します。

市の統計書の「市の沿革」の中には、平安時代に島津荘と呼ばれた荘園が平安末期には薩摩・大隅・日向3カ国にまたがる日本一の大荘園となり、その中心であった都城盆地は中・近世を通じて「庄内」と呼ばれていたことが記されています。まだ「都城」という地名が生まれる前のことです。

その後、様々な変遷を経て16世紀半ば頃、北郷家の支配の下「都城」と呼ぶようになったとあります。

そして、明治になって版籍奉還が行われたあと、「上荘内」「下荘内」という郷名が出てきますが、明治4年には、その「上荘内」が「荘内」に改称されたということですから、「荘内」という地名は、相当古くから使われているわけでございます。

この荘内地区は、その長い歴史の中で育まれてきた素晴らしい文化を大切に受け継いでこられました。そして、観光資源にも恵まれ、「日本の滝100選」に選ばれた関之尾の滝をはじめとする壮大で美しい自然を有する地域でもございます。

昭和40年4月1日、当時の都城市と荘内町とが合併しましたが、その合併により都城市の市域は一気にそれまでの2倍以上の231.35Km²になりました。

合併当時の「市政の歩み」には、昭和31年7月の庄内町と西岳村との合併時から一部で、都城市との合併に積極的な動きがあったことが記されています。

その後も、荘内地区におかれましては、地域の方々が一体となられて、これまでの伝統と文化を大切に守り育てながら50年の歴史を刻んでこられたところでございます。

そして、時代は平成にかわり、平成18年1月1日に、都城市は北諸県郡4町と合併し今年10年目を迎えたところでございます。

私ども市議会としましても、今後も都城市の均衡ある発展を目指して力を尽くしてまいり所存でございますので、何卒引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、庄内地区と西岳地区のまちづくり協議会が中心となられ、この荘内地区がこれまで培ってこられた地域の伝統や文化を継承しながら、新しい都城市を支えていただき、地域がさらなる発展を遂げていかれますことを御期待申し上げますとともに、皆様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



都城市・荘内町合併祝賀会での蒲生昌作市長挨拶

昭和40年4月23日

新緑照り映えるこの佳き日、都城市と荘内町との合併祝賀会を開催いたしましたところ、御多忙中にもかかわらず宮崎県知事殿をはじめ、多数の来賓ならびに関係各位の御来臨をかたじけのうし、誠に光栄に存じ厚くお礼申し上げます。

荘内町は北諸県郡内で面積・人口ともに最も大きな町でありましたが、今般の合併により新都城市は人口11万人、面積230km²となり、全国560都市のうち105番目の中都市として発足することになったのでありますが、今回の合併にあたりましては、自治省行政局、県当局、県議会、両市町議会をはじめ関係住民各位の終始変らざる深い御理解と積極的な御高配と御協力をたまわり極めて円満かつ順調に進展いたしましたことは、衷心より感謝にたえません。特にさきに公布されました「市町村の合併の特例に関する法律」の適用をうけますことは、新市財政と住民の福祉増進に大きな影響がありますので、市といたしましては慎重な配慮をいたしました結果、当初予定の3月1日合併を4月1日に変更いたしましたのでありますが、各位におかれましては、それぞれの立場において合併の趣旨に則し積極的な御理解と御懇篤なる御指導をたまわり、私たちの要望通り実現しましたことは、誠に感謝のほかならないところでありまして、このことは今回の合併が文字どおり天の時と地の利と人の和の渾然一体により生みだされたことを物語るものでありまして、今後は各位の示されました御懇情と御期待にそうべく一層の努力をいたし早急に新市の一体制を確立し、広域行政の実を挙げたい所存でございますので、更に一段の御指導と御鞭撻を願って止まない次第であります。

当市と荘内町とは古くから歴史的、地理的、文化的に血縁の間柄、唇齒舗車の関係にあることは自他ともに認められているのでありまして、この基盤に立って今回の合併となり、ようやく一体となりましたが、このことは歴史的、自然的住民交流の中から生れた必然の結果であったとさえ思われるのであります。

荘内町は明治22年庄内村として発足されて以来、76年のながい間、歴代の優れた村長、町長の御尽力と住民各位の御努力によりめざましい発展を遂げられて今日に至ったのでありますが、さきに行なわれた西岳村との合併に伴う都市建設計画の遂行についても格段の成果を挙げられ、昭和31年には合併優良先進町として自治大臣表彰をうけられたのをはじめ、優良町として全国町村会長表彰や全国町村議長会長より、優良議会として表彰の栄に浴されるなど、町ならびに議会共に輝かしい業績を残されたのでありまして、荘内地区の各位の示された愛町の御熱情とたゆまぬご努力に対しましては満腔の敬意をささげて止まない次第であります。

当市におきましても、去る昭和32年3月1日旧志和池村と合併以来一致協力をもって積極的に新市建設の推進につとめ、今日名実ともに都城市としての一体性を確立いたすことができたのでありまして、このたびの合併により策定いたしました新市建設5カ年計画の推進にあたりましても過去の相互の経験と信頼を基として誠心誠意その実現

に努力を惜しまぬ覚悟であります。

荘内地区のみなさんは長い歴史をもった町制自治との別れに一抹の淋しさと不安があることは充分お察しできるのでありますが、現在の社会情勢の進展と合併の意義をよく御理解いただきますと共に、新しく市民となられた方も、またこれをお迎えした私共旧都城市民も過去における合併の貴重な経験をいかし、大同団結一体となって希望に満ちた新市建設の大事業推進に共々邁進いたしたいと存じます。

特にこのたびの合併によりまして、霧島国立公園の高千穂峯、御池を含む地帯が市内に編入されましたことは、都城市の都市構造に画期的な大変貌を与えたのでありまして、今後この大自然にはぐくまれた産業的、観光的無限の宝庫を開発することにより、新都城市の発展に大きな夢が実現できますことを期待し、新市の前途に洋々たる希望をもつものであります。

新市建設の大事業は一朝一夕になるものではなく、多くの困難を伴うことが考えられますが、「事の成るは成る日に成るに非ず」と申しますとおり、今後市民が心を合わせ、力を合わせ共々一丸となって明るく豊かな住みよい大都市の実現に飛躍的な努力を致さねばならないことを決意する次第であります。

新しい都城市の発足と希望に満ちたその前途を全市民のみなさまとともに祝福いたしますと共に国県はもとより、県下各市ならびに近隣各町村の各位の変らざる御支援御協力を心からお願い申しあげ、郷土都城市がさらに発展することを深く祈念いたしまして私のごあいさつといたします。

昭和40年4月23日
都城市長 蒲生昌作



荘内町役場
荘内町勢要覧（昭和32年発行）より

荘内町合併のあらまし
「みやこのじょう」（昭和40年12月1日発行）より

合併についての理由

北諸県郡荘内町は、都城市の西北部に隣接し、古来都城市と産業文化も一体をなして発展し、気候、人情、風俗を同じくするその地縁、血縁関係は極めて密接不可分であり、さらに交通の発達に伴い、両市町間の距離は時間的に著しく短縮され、経済的にも政治的にも一層緊密の度を加え、行政制度の変革、住民自治意識の高揚と相まって、両市町の有機的な結合が強く要請されるに至ったので、合併することにより一体性を確立し、自治行政の合理的運営によって、行政水準の向上を図るとともに、北諸盆地の飛躍的発展に寄与し、住民福祉の向上を図るため、ここに両市町協議し、合併を議決した次第である。

荘内町のあらまし

荘内町のあけぼのは、石器時代に始まり、藤原時代にはこの地方一帯を島津荘と称していた。

明治2年鹿児島藩が設置され、都城郷を上荘内、下荘内、木尾山郷に三分したが、上荘内が今日の荘内町にあたる。明治4年廃藩置県にともない上荘内は荘内と改められ、都城県に属し、同6年宮崎県が設置されるとともにこれに属したが、明治9年宮崎県の鹿児島県併合にともない鹿児島県に属した。

しかし、明治16年宮崎県が再置され、再び宮崎県に編入され、明治22年町村制施行にあたって庄内・西岳で庄内村を形成したが、同24年分村して庄内村、西岳村をつくった。その後庄内村は大正13年町制を施行、庄内町となった。

昭和28年には町村合併促進法の施行にともない、県の合併促進審議会において庄内・西岳両町村の合併が決議され、昭和31年両町村議会は合併を議決、その名もいにしえの地名にちなんで「荘内」と名付けられ、7月15日をもって発足、人口19,278人面積も130.76km²となり、北諸県郡最大の町となった。

合併後は町道の拡張整備に力をそそぎ、一方国道・県道の拡張整備、舗装工事等も着々進められた。また小・中学校校舎、屋内体操場等の整備充実をはかり、部落毎の簡易水道事業も実施され、昭和36年には月ノ原土地地区画整理事業により都城市の一部を編入し、面積は130.89km²になった。農業構造改善事業も昭和40年実施の指定を受け、教育・経済の発展に大きな期待がよせられている。

合併当時の町三役

町長：横山新一 助役：宮里光広 収入役：臼杵義美

合併当時の荘内町議会議員

乙丸国彦	今村武盛	上村寿次	新穂利治	鶴島一二	岡元信孝
大重勝哉	前畑実雄	高野光盛	妹尾敬雄	津曲民雄	立野正義
束野重雄	薬丸利秋	東 常次	岡元高夫	日高真夫	岩佐道彦
前田武平次					

庄内町勢要覧（昭和 32 年発行）より

集落別（男女）人口世帯数

昭和 32 年 3 月末

集落名	戸数	人口		
		男	女	計
乙房	389	1,034	1,048	2,082
平田	226	657	655	1,312
川崎	189	497	494	991
関之尾	106	275	280	555
西	247	553	641	1,194
町	177	397	450	847
東	352	827	861	1,688
今屋	197	595	572	1,167
千草	174	468	440	908
宮島	196	452	461	913
下川内	116	281	334	615
上川内	105	236	260	496
後川内	43	140	140	280
渡司	33	82	85	167
上大塚	24	59	57	116
下大塚	27	78	72	150
高野	218	509	548	1,057

集落名	戸数	人口		
		男	女	計
荒川内	76	185	202	387
市之久保	23	63	77	140
東田野	64	174	202	376
西田野	70	192	213	405
東折田代	70	180	181	361
西折田代	54	144	128	272
折田代	72	168	185	353
上牛ノ脛	28	79	76	155
東牛ノ脛	43	129	137	266
西牛ノ脛	54	171	150	321
上馬渡	69	212	203	415
下馬渡	58	166	179	345
御池第一	58	145	126	271
御池第二	51	103	61	164
猪ノ子石	29	71	60	131
霧島官行	24	44	52	96
計	3,662	9,366	9,630	18,996

教職員及児童生徒数

昭和 32 年 5 月 1 日

学校名	教職員数		児童生徒数			学級数
	男	女	男	女	計	
庄内小学校	18	6	538	522	1,060	22
西岳小学校	8	6	247	260	507	11
菓子野小学校	9	5	226	226	452	11
乙房小学校	8	5	181	204	385	11
吉之元小学校	6	4	141	157	298	8
夏尾小学校	7	2	148	132	280	7
尺 御池分校	2	1	51	27	78	3
庄内中学校	18	4	408	400	808	15
西岳中学校	13	2	242	259	501	10

参考資料（学校基本調査より）

教職員及児童生徒数

平成 26 年 5 月 1 日

学校名	教職員数		児童生徒数			学級数
	男	女	男	女	計	
庄内小学校	4	10	91	84	175	7
菓子野小学校	6	6	49	45	94	6
乙房小学校	4	10	75	61	136	7
計	14	26	215	190	405	20
西岳小学校	3	4	15	12	27	3
吉之元小学校	3	3	1	6	7	2
夏尾小学校	4	5	3	5	8	4
御池小学校	3	2	5	5	10	2
計	13	14	24	28	52	11
庄内中学校	14	7	103	100	203	8
西岳中学校	6	3	12	9	21	3
夏尾中学校	5	2	6	6	12	2
計	25	12	121	115	236	13

参考資料（住民基本台帳より）

昭和 32 年 3 月と平成 27 年 3 月の人口比較

町名	昭和 32 年 3 月		平成 27 年 3 月	
	戸数	人口	世帯数	人口
庄内町	776	3,729	1,040	2,249
菓子野町	567	2,988	831	1,950
乙房町	615	3,394	1,284	2,806
関之尾町	295	1,546	454	936
小計	2,253	11,657	3,609	7,941
美川町	297	1,558	244	465
高野町	345	1,710	277	523
吉之元町	383	1,994	300	536
御池町	132	575	78	170
夏尾町	252	1,502	226	435
小計	1,409	7,339	1,125	2,129
計	3,662	18,996	4,734	10,070

荘内町勢要覧（昭和32年発行）より

概要

荘内町内学校数9校。内、中学校2、小学校6、分校1、戦後10年、各校共一応安定度を見たるも根本的改築校は、夏尾小の移転改築、吉ノ元小の大改築、夏尾小学校御池分校の新設等である。31年度庄内中学校の5教室増築、乙房小の2教室増等有り、新町内職員数129名、生徒数4,393名、1戸平均1.3名の就学。霧島山麓御池分校にも電燈が付き、ラジオがなり、水道が引かれた。乙房小学校も運動場の拡張が測され、やがて菓子野小も拡張、増築が予定されている。



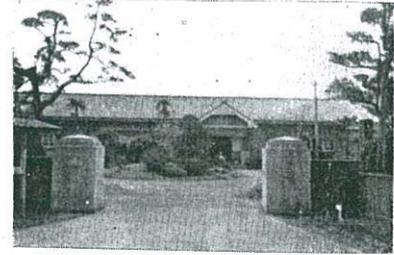
庄内小学校
明治3年7月創立



西岳小学校
明治6年4月創立
昭和13年4月現在地移転



夏尾小学校
明治6年5月創立
昭和20年3月現在地移転



乙房小学校
明治6年11月創立



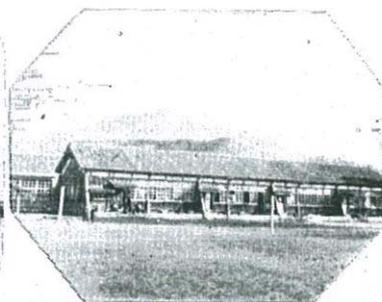
庄内中学校
昭和22年5月青年学校内に創設



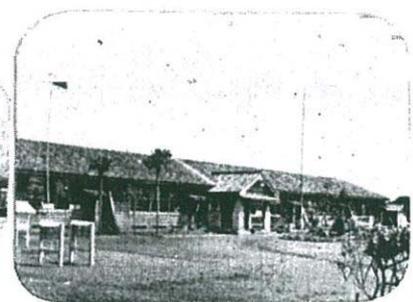
夏尾小学校御池分校
昭和30年4月創立



西岳中学校
昭和22年5月創立
昭和23年9月現位置に移転



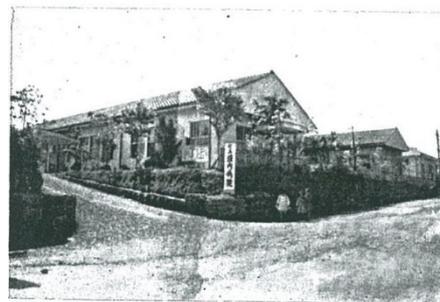
吉元小学校
明治6年4月現在地創立



菓子野小学校
昭和25年3月創立



(西岳支所・旧西岳村役場)



(町立 荘内病院)



スッコン谷



高野石橋



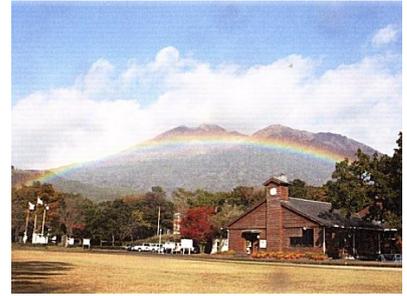
高千穂牧場



御池と高千穂峰



ゴロガ轟



御池小学校と虹



関之尾滝ライトアップ



庄内川の鯉のぼり



諏訪神社



釣こう院跡



山久院跡



願心寺本堂

西岳・庄内地区にはこのほかたくさん見どころがあります。ぜひお出かけください。

庄内地区まちづくり協議会
都城市庄内町 12692 番地
庄内地区公民館内
電話 37-0888 FAX37-2728

西岳地区まちづくり協議会
都城市美川町 2927 番地 48
西岳地区公民館内
電話 33-2000 FAX33-2564